

No. 894

一円電車

—兵庫—

標高1000m以上の山並が続く兵庫県の山間部、鉾山のある明延から製錬所の神子畑間（およそ10km）には一日5往復の客車便「明神電車」が走っている。時速20kmのこの豆電車の料金はわずか「一円也」、今どき耳を疑いたくなる様な話である。利用者は鉾山の職員とその家族がほとんど、一日の売り上げは平均40円、切符ですら一枚1円20銭の元手がかかっていると言う。これでは完全に赤字電車、それでも利用者に喜ばれてもらえばと一円電車は今日も山間部を軽快に走り抜けて行く。

ある証言

近田才典21歳。少年時代の補導歴6回、少年院入所2回。昭和45年10月、ライフル、実弾等を盗み、盗難車を乗継いで逃亡。10月27日、新潟県中条町にて逮捕さる。

故郷新潟県中条町関沢。静かな農村地帯の一隅に今母はひとり生きている。

「親に抗ったことは一度もなかった。明かるい素直な子だった」

その町には母校があり恩師もいる。

「身体の小さい子で、ひょうきん者で、じょうだんこきで、クラスの人気者でした」

おきな友だちもいる。

「めだたない、おとなしい子だった。都会でかわったのでは……」

昭和40年3月、才典16歳の時、東京へ集団就職、職場を転々と変える。雇主だった木工所の社長は「まじめでした。言われたことはきちんとする子でした」という。

才典の人格テストをした新潟少年鑑別所の教官は、「おとなしい少年でした」とその記憶を語る。

おとなしい、素直な子だった、と近田才典を知る誰もが語る。あのような事件をおこしたことが信じられないとも言った。

ひとりの少年が犯罪者にかわる転機はどこにあるのだろうか。

今、近田才典は殺人容疑者として、東京巣鴨の拘留所で囚れの日々を過している。

（昭和46年3月5日封切）